WEBオリジナル

池波正太郎の愛したまち【東京・浅草】

男たちがみこしを担ぎ練り歩く三社祭、夏の風物詩となったほおずき市、参詣者でにぎわう酉の市……。日本を代表する伝統行事の多くが東京・浅草で開かれている。

浅草は『鬼平犯科帳』の著者、池波正太郎（1923-1990）の生まれ故郷であり、小説の舞台ともなっているまちだ。江戸っ子気質の祖父にまち遊びを習った池波は、幼いころから小遣い銭で買い食いを好んだ。その経験が、小説の登場人物に粋なまち遊びをさせている。そして、まちを知り尽くした池波にしか書けない、細かい描写が読者を引き付けた。

下町の歴史とモダンな匂いをかもし出す浅草は、池波を魅了し、読者を魅了している。